

令和5年度東部地区道徳教育研究協議会

白岡市立篠津中学校

【A部会（1学年）】

主 題 名 立場の違いを受け入れる
内容項目 B 相互理解, 寛容
教 材 名 「言葉の向こうに」
（「私たちの道徳」文部科学省）



アンケートを活用した
問題意識をもたせる導入



グループでの話し合い活動



ねらいに迫るための発問の工夫

1 各グループからの発表（ワークショップ型分科会）

- 導入は生徒にとって身近な内容であり、生徒にとって分かりやすかった。アンケート調査の内容がよかった。アンケート結果を活用し、生徒との対話から本時で考えていきたいことを設定することができる。
- 全体を通して、ICTを効果的に活用していた。自分の学校でも参考にしたい。
- 役割演技は目的が明確であり、異なる立場の視点から考えることができた。様々な考えが出た後、それを生かすことで深い話し合いにつながっていく。
- 今回は、「加奈子が気づいた一番大事なことは何か？」と発問したが、他の登場人物についても聞いてみると、様々な視点で考えるきっかけとなるかもしれない。
- 自分が授業をする際に感じることだが、生徒の発言を生かしながら問い返しをして、話し合いを深めていけるようにしたい。



2 指導講評

- 目の前にいる生徒の実態を大切にしながら、今後も授業づくりをしていただきたい。授業展開の引き出しをたくさん作っておけるとよい。
- 今回の授業は、生徒に問題意識をもたせることができていた。生徒が主体的に考えるためにも、問題意識をもたせることが大切である。
- 自分の体験と重ね合わせる等、自分事として考えられるようにし、深い学びにつなげていきたい。
- 話し合いをする中で、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方について考えられるようにしたい。
- 生徒から出た意見をどのように生かし、どのように学びにつなげていくかが大切である。
- 「道徳的行為に関する体験的な学習」を行うときの留意点としては、活動自体が目的にならないよう、ねらいに迫るための手段となるようにする必要がある。

